献　　辞

人文学部部長
人間文化学会長　久　保　克　彦

2017年（平成29年）3月末をもって，小川嗣夫先生がご定年となられ，退任されることとなりました。2年前に，本学部は人間文化学部から人文学部に改組され，そのまだ道半ばにして，小川先生を失うということは，誠に残念でなりません。学部長経験者である小川先生には，まだまだお力をお貸しいただきたかったと思います。

小川先生は，関西学院大学大学院文学研究科博士課程（心理学専攻）を修了されました。そして，1975年から7年間，関西女子短期大学の専任講師を務められました。その後，1982年に八戸大学に赴任され，17年間教鞭をとられました。その間，教務部長，学生部長，図書館長など，多くの要職を歴任されました。その経験を買われて，本学には1999年から人間文化学部教授として赴任されましたが，いきなり初年度から教務主事を担当されています。また本学では，2007年から4年間，人間文化学部長としてご尽力いただきました。ちょうどこの間に，学科改組がありましたので，たいへんなご苦労をいただいたことと思います。

小川先生のご専門分野は，認知心理学と神経心理学ですが，「これまで心理学関係の授業なら，どんな科目も担当してきた」とおっしゃっています。このように幅広い知識と経験を持たれている先生ですが，特に，「言語材料の諸属性の検討―名詞の心像性，具象性，有意味度および学習容易性―」という論文は，日本心理学会から高い評価を得たと聞かせていただいております。また，博士号の学位は，1995年に『認知の大脳半球機能差に関する研究』という論文で，関西学院大学から授与されています。この論文は，1997年に風間書房から上梓されていますが，ご著書は他にもたくさん出版されています。特に，ブレーン出版から出された『卒論・修論の

ための心理学実験こうすればおもしろい』は学生たちに好評であり，３巻までシリーズ化されています。

次に学会活動ですが，日本心理学会でのたくさんのご発表は言うまでもありませんが，特筆すべきは，2011年11月に京都学園大学で開催されました第123回関西心理学会の大会会長を務められたことです。ちょうどその年の３月に東日本大震災があったことから，発表論文集巻頭の「大会会長ご挨拶」の中で，「このような状況の中で，私たち心理学に関係する者として，世界の平和と人々の幸せのために何ができるか，どのような役割を担わなければならないかを考えなければならないと思います」と提言されており，このあたりにも小川先生のお人柄が表れていると思います。

それから，もうひとつ小川先生のお人柄を示すエピソードとしては，「先生が大学に来ない日は，元旦とお盆の年に２日ぐらいじゃないか」と噂されるくらい，土曜・日曜も含めて毎日，研究室に来られていました。「大学の先生というのは，これくらい毎日，研究をしなければならないんだ」と，畏怖の念を禁じ得ませんでした。日頃，小川先生から聞かせていただいた言葉に，「その時，その時を精一杯やってきたと思っている」という言葉があるのですが，まさに「努力の末に今がある人」なのだと思います。

最後に，今ここで，小川先生をお送りしなければならないのは，誠に残念なことではあるのですが，これまでの小川先生のご尽力に感謝の言葉を申し上げ，先生の今後ますますのご健勝とご活躍をお祈りいたします。